

# くすりのしおり

内服剤

2023年09月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

## 製品名：アセトアミノフェン〈ハチ〉

主成分：アセトアミノフェン(Acetaminophen)

剤形：白色の散剤

シート記載など：



## この薬の作用と効果について

視床下部の体温調節中枢に作用して解熱作用をあらわします。また、視床や大脳皮質における痛覚の閾値を高めて鎮痛作用をあらわします。

通常、各種疾患および症状における鎮痛、急性上気道炎、小児科領域における解熱・鎮痛に用いられます。

## 次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。消化性潰瘍、血液異常、肝障害、腎障害、心機能不全、アスピリン喘息またはその既往歴がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

## 用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・各種疾患および症状における鎮痛：通常、成人は1回300～1,000mgを服用し、服用間隔は4～6時間以上とします。年齢・症状により適宜増減されますが、1日総量として4,000mgが限度です。空腹時に服用するのはなるべく避けてください。  
急性上気道炎：通常、成人は1回300～500mgを頓用します。年齢・症状により適宜増減されますが、原則として1日2回までとし、1日最大1,500mgを限度とします。空腹時に服用するのはなるべく避けてください。  
小児科領域における解熱・鎮痛：通常、乳児、幼児および小児は体重1kgあたり1回10～15mgを服用します。服用間隔は4～6時間以上とします。1日の総量として60mg/kgが限度です。年齢・症状により適宜増減されますが、成人の用量（1回500mg、1日1,500mg）を超えることはありません。空腹時に服用するのはなるべく避けてください。  
いずれの場合も、必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・飲み忘れた場合は、気がついた時に1回分を飲んでください。ただし、次の服用時間が近い場合は飲まないでいき、次に飲む時間から飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

## 生活上の注意

- ・アセトアミノフェンの過量服用により肝臓に障害がでる可能性があるため、この薬を服用している間は、アセトアミノフェンを含む他の薬（市販のかぜ薬などにも含まれていることがあります。）を服用しないでください。
- ・この薬を高用量（アセトアミノフェンとして1日1,500mgを超える場合）で長期間服用する場合は、定期的に肝臓の働きを調べることがあります。その場合には、指定された日時に検査を受けてください。
- ・アルコール（飲酒）によって、この薬による肝臓への副作用が起りやすくなるおそれがあるので、この薬を服用している間は飲酒を控えてください。

## この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、皮ふや粘膜の変色、出血時間の延長、吐き気・嘔吐、過敏症などが報告されています。

このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[ ]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・立ちくらみ、呼吸困難、じんま疹 [ショック、アナフィラキシー]
- ・発熱、目の充血、皮膚の広い範囲が赤くなる [中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、急性汎発性発疹性膿疱症]
- ・息苦しさ、喘鳴（ヒューヒュー音） [喘息発作の誘発]
- ・全身倦怠感、吐き気・嘔吐、皮膚や白目が黄色くなる [劇症肝炎、肝機能障害、黄疸]
- ・節々の痛み、尿量が少なくなる、血尿 [間質性腎炎、急性腎障害]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

**保管方法 その他**

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

**医療担当者記入欄**

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。